

## 北海道札幌平岸高等学校の取組

### 1. 研究のねらい

ユネスコ世界寺子屋プロジェクトなどの活動に参加して、国際教育がよりカリキュラム化するよう、ユネスコスクールへの加盟を求め、札幌市教育委員会を通じて日本ユネスコ国内委員会へ申請しているところである。

文部科学省および日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールを持続可能な開発のための教育(ESD:Education for Sustainable Development)の推進拠点と位置付けており、ユニセフのユネスコ憲章に示されていた理念を学校現場で実践するため、本校でも国際理解教育の実験的な試みを比較研究し、推進をする。

※平成 27 年現在、本校はユネスコスクールとして認定されております。

### 2. 取組内容

#### (1) ユネスコ世界寺子屋プロジェクトの活動

##### ①国際識字デーイベントへの参加

9月8日日本ユネスコ協会連盟カンボジア事務所のヴァンタイ・クランさんが、北広島市の大曲東小学校で講演会を行う際に、本校の生徒3名が招待され、日本ユネスコ協会連盟のカンボジアでの寺子屋支援の活動について、講演を聴く機会を得ることができた。



##### ②さっぽろ雪まつりでの募金活動の取組

生徒が札幌らしい学校教育キャラクターを使って、第66回さっぽろ雪まつり的大通西6丁目会場で中雪像「おっほんの子どもたちへの思いやり～ユネスコ寺子屋プロジェクト～」の雪像をデザインし、1、2年のデザインアートコース約50名が授業で雪像を制作した。雪まつりの期間中、校内では書き損じハガキの回収、雪まつり会場ではユネスコ寺子屋プロジェクトの募金活動を行い、62,981円の募金を札幌ユネスコ協会を通して行った。



##### ③リーフレットコンテストの取り組み

昨年に引き続き、日本ユネスコ協会連盟の世界寺子屋プロジェクトリーフレットコンテストでカンボジアの教育支援のための、書き損じハガキ回収に取り組んで、リーフレットの制作と校内掲示、書き損じハガキポストの設置を行った。



平岸高校では、発展途上国の教育施設建設のために書き損じハガキを集めています。  
ユネスコ世界寺子屋運動にご協力をお願いします。  
北海道札幌平岸高等学校 〒062-0935 札幌市豊平区平岸1-1-2  
電話 011-812-2010 ユネスコ寺子屋プロジェクトまで

公益社団法人  
日本ユネスコ協会連盟

## (2) ポートランド市グラント高校との交流、北海道インターナショナルスクールとの交流

### ① ポートランド市グラント高校との交流

市立高校では平成22年度からポートランド市で日本語のイマージョン教育を受けているグラント高校生の受入及び昨年度3月から市立高校生のグラント高校への派遣を開始し、相互派遣プログラムが本格化し、本校からも2名の生徒が参加している。

東白石児童会館との交流は、児童にアメリカの遊びの一方的な紹介だけではなく、グラント高校生及びそのホームステイ先の生徒、ポートランドに派遣された本校生徒と児童が、日本とアメリカの遊びを相互に伝えあうことによって、国際理解だけでなく異校種間の相互交流も実施した。



### ② 北海道インターナショナルスクールとの交流

北海道インターナショナルスクールとは、ESSが定期的に書道体験、ハロウィン等には生徒がそれぞれの学校を訪問し相互交流をしているが、今年度は高等部の生徒たちのブックトレーラーコンテストの作品制作のために、2年生の情報メディアデザインの授業で動画制作の交流授業を行った。



## 3. 成果と課題

### (1) 成果

第6回ユネスコスクール全国大会に参加して、昨年度の「デジタル絵本によるポートランドとの交流」と「私のまちのたからものコンテスト」の活動をポスター発表した。また、この活動がESD優良活動実践事例に採択され、ユネスコスクールの優良活動実践事例集に掲載されることとなった。

ユネスコ寺子屋プロジェクトについては、第66回さっぽろ雪まつりにおいて、ユネスコ寺子屋プロジェクトをテーマにした雪像を制作することにより、生徒の発展途上国への教育支援についての関心が高まり、リーフレット制作や募金活動などの国際協力に参加することができた。

ポートランド市のグラント高校や北海道インターナショナルスクールとの生徒の交流を通して、異文化理解、国際理解が促進することができた。

### (2) 課題

今年度の成果を踏まえ、来年度からはユネスコスクールとして国際理解教育が我が国の文化や異文化理解に関わる取組に積極的に取り組んでいきたい。

例えば、「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」(文部科学省・外務省後援事業)に参加して、美術や英語などの教科横断的なカリキュラムに取り組むこともひとつの方法である。また、ICTルーム(旧LL教室)の活用によるSkypeなどを使った遠隔地交流などにも積極的に取り組んでいきたい。